

2018年主要文献目録 (2018年刊行の文献を掲載対象としている)

* 国際法、国際私法の雑誌名は原則として法律編集者懇話会のものを使用した。略語表は『法律関係 8 学会共通会員名簿』又は『法律時報』89巻13号(2017年12月)を参照。

国際政治・外交史

著書

【一般】

浅古 泰史	ゲーム理論で考える政治学—フォーマルモデル入門	有斐閣
浅野 正彦、矢内 勇生	Rによる計量政治学	オーム社
ジャック・アタリ(著), 山本 規雄(訳)	新世界秩序—21世紀の「帝国の攻防」と「世界統治」	作品社
阿部 容子、北 美幸、篠崎 香織、 下野 寿子(編)	「街頭の政治」をよむ—国際関係学からのアプローチ	法律文化社
有賀 誠	臨界点の政治学	晃洋書房
安斎 育郎、林田 光弘、木村 朗 (編)	核兵器禁止条約を使いこなす	かもがわ出版
井田 正道	日本政治の展開	北樹出版
H・P・ウィルモット(著), 等松 春夫 (監訳)	大いなる聖戦—第二次世界大戦全史 上下	国書刊行会
上神 貴佳、三浦 まり(編)	日本政治の第一歩 (有斐閣ストゥディア)	有斐閣
宇野 重規	未来をはじめ—「人と一緒にいること」の政治学	東京大学出版会
大芝 亮、秋山 信将、大林 一広、 山田 敦(編)	パワーから読み解くグローバル・ガバナンス論	有斐閣
岡部 恭宜(編)	青年海外協力隊は何をもたらしたか—開発協力とグローバル人材育成50年の成果	ミネルヴァ書房
小川 浩之、板橋 拓己、青野 利彦	国際政治史—主権国家体系のあゆみ(有斐閣ストゥディア)	有斐閣
小田桐 確、長谷川 晋、岸野 浩一 (編)	ワークブック国際関係論—身近な視点から世界を学ぶ	ナカニシヤ出版
越智 敏夫	政治にとって文化とは何か—国家・民族・市民	ミネルヴァ書房
川名 晋史、佐藤 史郎(編)	安全保障の位相角	法律文化社
川中 豪(編)	後退する民主主義、強化される権威主義—最良の政治制度とは何か	ミネルヴァ書房

ジョン・キーガン(著) , 並木均(訳)	情報と戦争—古代からナポレオン戦争、南北戦争、二度の世界大戦、現代まで	中央公論新社
木下 健、オフェル・フェルドマン	政治家はなぜ質問に答えないか—インタビューの心理分析	ミネルヴァ書房
木村 宏恒 (監修), 稲田 十一、小山田 英治、金丸 裕志、杉浦 功一 (編)	開発政治学を学ぶための61冊—開発途上国のガバナンス理解のために	明石書店
葛谷 彩、芝崎 厚士 (編)	「国際政治学」は終わったのか—日本からの応答	ナカニシヤ出版
グローバル・ガバナンス学会(編)	グローバル・ガバナンス学 1・2 (グローバル・ガバナンス学叢書)	法律文化社
河野 勝	政治を科学することは可能か	中央公論新社
佐々木 毅 (編)	民主政とポピュリズム—ヨーロッパ・アメリカ・日本の比較政治学	筑摩書房
佐渡友 哲、信夫 隆司、柑本 英雄 (編)	国際関係論 (第3版)	弘文堂
佐藤 卓己、河崎 吉紀 (編)	近代日本のメディア議員—「政治のメディア化」の歴史社会学	創元社
城山 英明	科学技術と政治	ミネルヴァ書房
杉木 明子	国際的難民保護と負担分担—新たな難民政策の可能性を求めて	法律文化社
杉田 敦 (編)	デモクラシーとセキュリティ—グローバル化時代の政治を問い直す	法律文化社
トマス・シェリング(著) , 斎藤 剛 (訳)	軍備と影響力—核兵器と駆け引きの論理	勁草書房
高橋 和夫	現代の国際政治 (3訂)	放送大学教育振興会
高柳 彰夫、大橋 正明 (編)	SDGsを学ぶ—国際開発・国際協力入門	法律文化社
武田 昌之	戦争・平和・国際組織—歴史的に考える	東海大学出版部
田所 昌幸	越境の国際政治—国境を越える人々と国家間関係	有斐閣
田中 愛治 (編)	熟議の効用、熟慮の効果—政治哲学を実証する	勁草書房
谷口 将紀、水島 治郎 (編)	ポピュリズムの本質—「政治的疎外」を克服できるか	中央公論新社
ロバート・タリス(著) , 白川 俊介 (訳)	政治哲学の魅力	関西学院大学出版会
坪郷 實	環境ガバナンスの政治学—脱原発とエネルギー転換	法律文化社
寺島 英明	大国主義国家論	東京図書出版

中田 晋自、松尾 秀哉、臼井 陽一郎、金 敬黙、平賀 正剛 (編)	入門政治学365日	ナカニシヤ出版
永山 博之、富崎 隆、青木 一益、真下 英二 (著)	政治学への扉 (改訂版)	一藝社
西 平等	法と力ー戦間期国際秩序思想の系譜	名古屋大学出版会
日本平和学会 (編)	平和をめぐる14の論点ー平和研究が問い続けること	法律文化社
野口 雅弘	忖度と官僚制の政治学	青土社
長谷川 祐弘	国連平和構築ー紛争のない世界を築くために何が必要か	日本評論社
早川 有紀	環境リスク規制の比較政治学ー日本とEUにおける化学物質政策	ミネルヴァ書房
ニール・ファーガソン、ファリード・ザカリア(著) , 酒井 泰介(訳)	リベラルvs. 力の政治ー反転する世界秩序	東洋経済新報社
ローレンス・フリードマン(著) , 貫井 佳子(訳)	戦略の世界史ー戦争・政治・ビジネス 上・下	日本経済新聞出版社
イアン・ブレマー(著), 奥村 準(訳)	対立の世紀ーグローバリズムの破綻	日本経済新聞出版社
防衛大学校安全保障学研究会 (編), 武田 康裕、神谷 万丈 (責任編集)	安全保障学入門 (新訂第5版)	亜紀書房
星野 昭吉	変態するグローバル危機(リスク)社会と現状変革志向ガバナンス	文眞堂
星野 俊也、大槻 恒裕、村上 正直 (編)	グローバリズムと公共政策の責任 第2巻	大阪大学出版会
ロバート・マクマン(著), 青野 利彦(監訳), 平井 和也(訳)	冷戦史	勁草書房
松田 憲忠、岡田 浩 (編)	よくわかる政治過程論 (やわらかアカデミズム・<わかる> シリーズ)	ミネルヴァ書房
丸山 真男	戦中と戦後の間ー1936-1957 (新装版)	みすず書房
御厨 貴、芹川 洋一 (編)	平成の政治	日本経済新聞社
水島 治郎、君塚 直隆 (編)	現代世界の陛下たちーデモクラシーと王室・皇室	ミネルヴァ書房
村上 勇介 (編)	「ポピュリズム」の政治学ー深まる政治社会の亀裂と権威主義化	国際書院
毛受 敏浩	姉妹都市の挑戦ー国際交流は外交を超えるか	明石書店

ハンス・J・モーゲンソー(著), 星野 昭吉、高木 有(訳)	科学的人間と権力政治	作品社
森 達也	思想の政治学—アイザイア・バーリン研究	早稲田大学出版部
山田 満(編)	新しい国際協力論(改訂版)	明石書店
吉野 篤(編)	政治学(第2版)	弘文堂
モーリス・ヴァイス(著), 細谷 雄一、宮下 雄一郎(監訳)	戦後国際関係史—二極化世界から混迷の時代へ	慶應義塾大学出版会
スティーブン・レビツキー、ダニエル・ジブラット(著), 濱野 大道(訳)	民主主義の死に方—二極化する政治が招く独裁への道	新潮社

【日本関係】

麻田 雅文	日露近代史—戦争と平和の百年(講談社現代新書)	講談社
伊藤 之雄、中西 寛(編)	日本政治史の中のリーダーたち—明治維新から敗戦後の秩序変容まで	京都大学学術出版会
池宮城 陽子	沖縄米軍基地と日米安保—基地固定化の起源1945-1953	東京大学出版会
井上 寿一	機密費外交—なぜ日中戦争は避けられなかったのか(講談社現代新書)	講談社
井上 寿一	日中戦争—前線と銃後(講談社学術文庫)	講談社
今井 昭彦	対外戦争戦没者の慰霊—敗戦までの展開	御茶の水書房
岩間 敏	アジア・太平洋戦争と石油—戦備・戦略・対外政策	吉川弘文館
上杉 勇司、藤重 博美(編)	国際平和協力入門—国際社会への貢献と日本の課題	ミネルヴァ書房
衛藤 吉則	西晋一郎の思想—広島から「平和・和解」を問う	広島大学出版会
岡澤 憲芙(監修), 日瑞150年委員会(編)	日本・スウェーデン交流150年—足跡と今、そしてこれから	彩流社
金 恩貞	日韓国交正常化交渉の政治史	千倉書房
国吉 栄	森有礼が切り拓いた日米外交—初代駐米外交官の挑戦	勉誠出版
アンドルー・ゴードン(著), 瀧井 一博(編)	創発する日本へ—ポスト「失われた20年」のデッサン	弘文堂
近藤 潤三	比較のなかの戦後史—日本とドイツ	木鐸社
今野 元	吉野作造と上杉慎吉—日独戦争から大正デモクラシーへ	名古屋大学出版会
酒井 一臣	帝国日本の外交と民主主義	吉川弘文館
佐々木 雄一	陸奥宗光—「日本外交の祖」の生涯(中公新書)	中央公論新社

佐藤 史郎、川名 晋史、上野 友也、齋藤 孝祐 (編)	日本外交の論点	法律文化社
信田 智人	政権交代と戦後日本外交	千倉書房
清水 雅大	文化の枢軸—戦前日本の文化外交とナチ・ドイツ	九州大学出版会
下平 拓哉	日本の安全保障—海洋安全保障と地域安全保障	成文堂
杉原 達 (編)	戦後日本の「帝国」経験—断裂し重なり合う歴史と対峙する (日本学叢書 5)	青弓社
鈴木 達治郎、広瀬 訓、藤原 帰一 (編)	核の脅威にどう対処すべきか—北東アジアの非核化と安全保障 (RECNA叢書 3)	法律文化社
シーラ・スミス (著), 伏見 岳人、佐藤 悠子、玉置 敦彦 (訳)	日中親愛なる宿敵—変容する日本政治と対中政策	東京大学出版会
高橋 和宏	ドル防衛と日米関係—高度成長期日本の経済外交1959-1969年	千倉書房
武田 悠	日本の原子力外交—資源小国70年の苦闘 (中公叢書)	中央公論新社
竹山 昭子	戦争と放送 (読みなおす日本史)	吉川弘文館
千野 境子	戦後国際秩序の終わり—世界の中の日本	連合出版
筒井 清忠	戦前日本のポピュリズム—日米戦争への道 (中公新書)	中央公論新社
日本移民学会 (編)	日本人と海外移住—移民の歴史・現状・展望	明石書店
羽賀 祥二 (編)	近代日本の歴史意識	吉川弘文館
波多野 澄雄、中村 元哉 (編)	日中戦争はなぜ起きたのか—近代化をめぐる共鳴と衝突	中央公論新社
服部 龍二	高坂正堯—戦後日本と現実主義 (中公新書)	中央公論新社
松尾 正人 (編)	近代日本成立期の研究—政治・外交編	岩田書店
ジョン・ミッチェル (著), 阿部 小涼 (訳)	追跡日米地位協定と基地公害—「太平洋のゴミ捨て場」と呼ばれて	岩波書店
宮崎 洋子	「テロとの闘い」と日本—連立政権の対外政策への影響	名古屋大学出版会
森田 徳彦	地政学の時代—リアリズムで迫る近代日本外交史	勁草書房
吉次 公介	日米安保体制史 (岩波新書)	岩波書店
渡邊 公太	第一次世界大戦期日本の戦時外交—石井菊次郎とその周辺	現代図書

【アジア・中東・アフリカ・ラテンアメリカ・オセアニア関係】

天兒 慧	中国政治の社会態制	岩波書店
------	-----------	------

天児 慧 (編), 茅原 郁生、関 志雄、佐藤 考一、中兼 和津次、菱田 雅晴、毛里 和子 (著)	習近平が変えた中国	小学館
五百旗頭 真 (編)	激動のアジア太平洋を生きる—熊本県立大学国際シンポジウム 2	熊本日日新聞社
臼杵 陽	「中東」の世界史—西洋の衝撃から紛争・テロの時代まで	作品社
梅田 皓士	分裂の韓国政治—政治的エリートによる政治的亀裂の形成	志學社
宇山 智彦、樋渡 雅人(編)	現代中央アジア—政治、経済、社会	日本評論社
小此木 政夫	朝鮮分断の起源—独立と統一の相克	慶應義塾大学出版会
加茂 具樹、林 載桓(編)	現代中国の政治制度—時間の政治と共産党支配	慶應義塾大学出版会
栗田 真広	核のリスクと地域紛争—インド・パキスタン紛争の危機と安定	勁草書房
湖中 真哉、太田 至、孫 暁剛(編)	地域研究からみた人道支援—アフリカ遊牧民の現場から問い直す	昭和堂
佐藤 壮、江口 伸吾(編)	変動期の国際秩序とグローバル・アクター中国—外交・内政・歴史	国際書院
佐藤 麻理絵	現代中東の難民とその生存基盤—難民ホスト国ヨルダンの都市・イスラーム・NGO	ナカニシヤ出版
鄒 燦	「盧溝橋事件記念日」をめぐる日本と中国—政治的語りを見る日中戦争像の比較研究	大坂大学出版会
高岡 豊、白谷 望、溝渕 正季 (編) 著	中東・イスラーム世界の歴史・宗教・政治—多様なアプローチが織りなす地域研究の現在	明石書店
竹中 千春	ガンディー—平和を紡ぐ人 (岩波新書)	岩波書店
趙 軍	中国における大アジア主義—「聯日」と「抗日」のあいだ	ミネルヴァ書房
鶴田 綾	ジェノサイド再考—歴史のなかのルワンダ	名古屋大学出版会
外山 文子、日下 渉、伊賀 司、見市 建 (編)	21世紀東南アジアの強権政治—「ストロングマン」時代の到来	明石書店
奈倉 京子 (編)	中国系新移民の新たな移動と経験—世代差が照射する中国と移民ネットワークの関わり	明石書店
鍋島 孝子	激動のアフリカ農民—農村の変容から見える国際政治	明石書店
昇 亜美子、滝井 光夫、大橋 英夫、川野 祐司、池田 明史	揺れる国際秩序とアジア (アジア研究所叢書 32)	亜細亜大学アジア研究所
橋本 伸也 (編)	紛争化させられる過去—アジアとヨーロッパにおける歴史の政治化	岩波書店
羽場 久美子 (編)	アジアの地域共同—未来のために (東アジア共同体シリーズ 第3巻)	明石書店
浜口 伸明	ラテンアメリカ所得格差論—歴史的起源・グローバル化・社会政策 (アジア環太平洋研究叢書 第2巻)	国際書院
藤井 賢二	竹島問題の起原—戦後日韓海洋紛争史	ミネルヴァ書房
牧田 満知子	紛争終結後のカンボジア—国軍除隊兵士と社会再統合	世界思想社

増原 綾子、鈴木 絢女、片岡 樹、 宮脇 聡史、古屋 博子	はじめての東南アジア政治 (有斐閣ストウディア)	有斐閣
松田 康博、清水 麗 (編)	現代台湾の政治経済と中台関係	晃洋書房
毛里 和子	現代中国外交	岩波書店
李 鍾元、木宮 正史 (編)	朝鮮半島危機から対話へー変動する東アジアの地政図	岩波書店
劉 仙姫	朴正熙における民族主義の本質ー1970年代の核開発と「自主韓国」	晃洋書房
マイケル・ワイス、ハサン・ハサン (著)、 山形 浩生 (訳)	イスラム国ーグローバル・ジハード「国家」の進化と拡大	亜紀書房

【アメリカ・ヨーロッパ関係】

生井 英考	空の帝国アメリカの20世紀 (講談社学術文庫)	講談社
井口 治夫	誤解された大統領ーフーヴァーと総合安全保障構想	名古屋大学出版会
岩瀬 昇	超エネルギー地政学 アメリカ・ロシア・中東編	エネルギー・フォーラム
マイケル・ウォルツァー(著), 萩原 能久 (監訳)	アメリカ左派の外交政策	風行社
梅川 葉菜	アメリカ大統領と政策革新ー連邦制と三権分立制の間で	東京大学出版会
梅本 哲也	米中戦略関係	千倉書房
大久保 明	大陸関与と離脱の狭間でーイギリス外交と第一次世界大戦後の西欧安全保障	名古屋大学出版会
大橋 尚泰	フランス人の第一次世界大戦ー戦時下の手紙は語る	えにし書房
尾上 修悟	BREXIT「民衆の反逆」から見る英国のEU離脱ー緊縮政策・移民問題・欧州危機	明石書店
上久保 誠人	逆説の地政学ー「常識」と「非常識」が逆転した国際政治を、英国が真ん中の世界地図で読み解く	晃洋書房
木村 汎	ブーチンー外交的考察	藤原書店
久保 文明	アメリカ政治史	有斐閣
イワン・クラステフ(著), 庄司 克宏 (監訳)	アフター・ヨーロッパーポピュリズムという妖怪にどう向きあうか	岩波書店
黒田 友哉	ヨーロッパ統合と脱植民地化、冷戦-第四共和制後期フランスを中心に	吉田書店
斎藤 元秀	ロシアの対日政策 上・下	慶應義塾大学出版会
島村 直幸	「抑制と均衡」のアメリカ政治外交-歴史・構造・プロセス	ミネルヴァ書房

須網 隆夫、21世紀政策研究所 (編)	英国のEU離脱とEUの未来	日本評論社
高安 健将	議院内閣制—変貌する英国モデル (中公新書)	中央公論新社
チャールズ・カラン・タンシル (著), 渡辺 惣樹 (訳)	裏口からの参戦—ルーズベルト外交の正体1933-1941 上・下	草思社
竹中 亨	ヴァルヘルム2世—ドイツ帝国と命運を共にした「国民皇帝」 (中公新書)	中央公論新社
津田 由美子、松尾 秀哉、正躰 朝 香、日野 愛郎 (編)	現代ベルギー政治—連邦化後の20年	ミネルヴァ書房
土田 宏	「発想の転換」の政治—ケネディ大統領の遺言	彩流社
土屋 大洋 (編)	アメリカ太平洋軍の研究—インド・太平洋の安全保障	千倉書房
イアン・ティレル、ジェイ・セクストン (編) 著, 藤本 茂生、坂本 季詩雄、山倉 明弘 (訳)	アメリカ「帝国」の中の反帝国主義—トランスナショナルな視点からの米国史	明石書店
東京財団政策研究所 (監修), 久保 文明、阿川 尚之、梅川 健 (編)	アメリカ大統領の権限とその限界—トランプ大統領はどこまでできるか	日本評論社
富田 浩司	マーガレット・サッチャー —政治を変えた「鉄の女」 (新潮選書)	新潮社
エンツォ・トラヴェルソ (著), 宇京 頼三 (訳)	ヨーロッパの内戦—炎と血の時代 1914-1945年	未来社
西山 隆行	アメリカ政治入門	東京大学出版会
原田 徹	EUにおける政策過程と行政官僚制 (ガバナンスと評価 4)	晃洋書房
チャールズ・A.ビーアド (著), 開米 潤、丸茂 恭子 (訳)	「戦争責任」はどこにあるのか —アメリカ外交政策の検証1924-40	藤原書店
ニール・ファーガソン (著), 山本 文 史 (訳)	大英帝国の歴史 上・下	中央公論新社
ジョナサン・フェンビー (著), 河内 隆弥 (訳)	奇妙な同盟—ルーズベルト、スターリン、チャーチルは、いかにして第二次大戦に勝ち、冷戦を始めたか 1・2	藤原書店
A・J・ベイルム (著), 河内 隆弥 (訳)	まさかの大統領—ハリー・S・トルーマンと世界を変えた四カ月	国書刊行会
ピーター・ポマランツェフ (著), 池田 年 穂 (訳)	プーチンのユートピア—21世紀ロシアとプロパガンダ	慶應義塾大学出版会
本多 魏耀	スターリンの原爆開発と戦後世界—ベルリン封鎖と朝鮮戦争の真実	芙蓉書房出版

J・C・マクノートン (著), 森田 幸夫 (訳)	もう一つの太平洋戦争—米陸軍日系二世の語学兵と情報員	彩流社
松村 昌廣	衰退する米国覇権システム	芦書房
丸山 直起	ホロコーストとアメリカ—ユダヤ人組織の支援活動と政府の難民政策	みすず書房
宮島 喬、木畑 洋一、小川 有美 (編)	ヨーロッパ・デモクラシー — 危機と転換	岩波書店
村上 信一郎	ベルルスコーエの時代—崩れゆくイタリア政治 (岩波新書)	岩波書店
山本 直	EU共同体のゆくえ—贈与・価値・先行統合	ミネルヴァ書房
渡邊 啓貴	アメリカとヨーロッパ—揺れる同盟の80年 (中公新書)	中央公論新社

【資料】

秋山 昌廣 (著), 真田 尚剛、服部 龍二、小林 義之 (編)	元防衛事務次官秋山昌廣回顧録—冷戦後の安全保障と防衛交流	吉田書店
浅野 豊美、吉澤 文寿、長澤 裕子、金 鉉洙 (編集・解説)	日韓国交正常化問題資料 第3期第6-9巻	現代史料出版
上田 秀明	現代国際政治私史—外交官の回想	岳陽舎
河原地 英武、平野 達志 (訳), 家近 亮子、川島 真、岩谷 將 (監修)	日中戦争と中ソ関係—1937年ソ連外交文書邦訳・解題・解説	東京大学出版会
環境経済・政策学会 (編)	環境経済・政策学事典	丸善出版
ポール・クローデル (著), 奈良 道子 (訳)	孤独な帝国日本の1920年代—ポール・クローデル外交書簡1921-27 (草思社文庫)	草思社
国際開発学会 (編)	国際開発学事典	丸善出版
エッカルト・コンツェ、ノルベルト・フライ、ピーター・ヘイズ、モシエ・ツインマン (著), 稲川 照芳、足立 ラーベ加代、手塚 和彰 (訳)	ドイツ外務省「過去と罪」—第三帝国から連邦共和国体制下の外交官言行録	えにし書房
嶋倉 民生、井上 正也 (編)	LT・MT貿易関係資料—愛知大学国際問題研究所所蔵 第1-8巻	ゆまに書房
リチャード・E・ソーニア、リチャード・A・メガンク (編), 植田 和弘、松下 和夫 (監訳)	グローバル環境ガバナンス事典	明石書店

高橋 利巳	ある外交官の回想激動の昭和に生きて―戦中・戦後の真実	展転社
田島 高志 (著), 高原 明生、井上 正也 (編集協力)	外交証言録日中平和友好条約交渉と鄧小平来日	岩波書店
戸高 一成 (編)	証言録 海軍反省会 11	PHPエディターズ・グループ
日本対外文化協会	日本対外文化協会50年史―民間外交の絆をつなぐ	日本対外文化協会
防衛省防衛研究所戦史研究センター (編)	オーラル・ヒストリー日本の安全保障と防衛力 2・3	防衛省防衛研究所

論文 (国際政治・外交史)

【一般】

赤星 聖	複合的なガバナンスにおける国際機構間関係	国際政治192
秋田 茂	序論 グローバルヒストリーから見た世界秩序の再考	国際政治191
秋山 肇	UNHCRによる無国籍の予防と削減に向けた取り組み―その効果と課題	国連研究19
新垣 修	武力紛争による人の移動と難民レジームの規範	国際政治190
有江 浩一	最小限抑止概念の検証	防衛研究所紀要21(1)
五十嵐 元道	紛争の証言者としての人権NGOの出現―人道危機監視ネットワークの生成と展開	国際政治193
池内 恵	宗教と国際政治	国際問題675
石井 由香	序論 移民・難民をめぐるグローバル・ポリティクス	国際政治190
一政 祐行	核兵器国及び「核の傘」国と核兵器禁止条約 (TPNW)	防衛研究所紀要21(1)
梅本 哲也	北朝鮮核・ミサイル問題の展開と米国の選択肢	国際問題670
大井 知範	越境する海軍と二〇世紀初頭の帝国秩序	国際政治191
大内 勇也	人権条約の形成過程における法律家の政治的影響力	国際政治192
大塚 海夫	北清事変における海軍連合作戦―「列国海軍指揮官会議」の果たした役割を中心として	国際安全保障46(2)
帯谷 俊輔	「強制的連盟」と「協議的連盟」の狭間で―国際連盟改革論の位相	国際政治193
柏崎 正憲	難民条約締結前における日本の入国管理政策と在留特別許可	平和研究48
キハラハント 愛	国連警察の武装化の要因分析	国連研究19
クロス 京子	「女性・平和・安全保障」のパラドックス―ジェンダーから見る紛争後リベリアのハイブリッド治安部門改革	国際政治194
小泉 康一	「グローバル難民危機」と過渡期の難民・強制移動研究	国連研究19
高 日東	対北朝鮮経済制裁は突破口となるか	国際問題670
河野 桂子	「タリン・マニュアル 2」の有効性考察の試み―サイバー空間における国家主権の観点から	防衛研究所紀要21(1)

小阪 真也	移行期における立憲主義と正義—南アフリカとネパールのTRC法に対する立憲的正統性の評価の比較	平和研究50
小阪 裕城	国際機構に請願する権利—世界人権宣言と個人の主体化をめぐる国連史序説	国際政治193
小宮山 功一郎、土屋 大洋	サイバーセキュリティ戦略の国際比較—目的と対象範囲に基づく四類型	グローバル・ガバナンス4
齋川 貴嗣	知的協力から国際文化交流へ—国際連盟知的協力国際委員会における理念変容	国際政治193
坂口 大作	「我らが海（Mare Nostrum）」と陸地の影響力—「開放された海」と「閉ざされた海」	国際安全保障46(2)
佐藤 丙午	自律型致死性無人兵器システム（LAWS）	国際問題672
篠原 初枝	序章 平和的国際機構と歴史研究	国際政治193
下谷内 奈緒	国際刑事裁判の法の支配とその射程	国際政治194
神保 謙	「インド太平洋」構想の射程と課題	国際安全保障46(3)
杉村 美紀	学生移動を支える国境を越える高等教育とユネスコの対応	国連研究19
詫摩 佳代	機能的アプローチの実践と国際組織化—国際連盟、戦時食糧協力、FAOへ	国際関係論研究33

詫摩 佳代	国連システムの構築におけるトランスナショナルネットワークの役割—戦時食料協力からの一考察	国際政治193
鶴岡 路人	国際秩序をめぐる攻防の時代—序論	国際安全保障45(4)
土佐 弘之	体制移行と暴力—世界秩序の行方	国際政治194
中村 長史	出口戦略の 딜레마—構築すべき平和の多義性がもたらす難題	平和研究48
中村 長史	出口戦略の歴史的分析—武力行使の変貌がもたらす撤退の変容	国連研究19
中村 信之	「国民外交」における「中心」性と「周辺」性	国際政治191
中山 裕美	移民ガバナンスにおける地域間主義の意義	国際政治190
古内 洋平	移行期における賠償と開発の結合—正義のカスケードか、ハイジャックか	国際政治194
古澤 嘉朗	平和構築と法の多元性—法執行活動に着目して	国際政治194
牧原 出	国際法廷の制度的定着—南西アフリカ事件後の国際司法裁判所	年報政治学2018-1
宮岡 勲	対外政策変更とリーダーの個性に関する諸理論	国際安全保障46(1)
宮下 大夢	「保護する責任」規範の現地化—カンボジアによるR2P担当官の設置を事例に	グローバル・ガバナンス4
本山 央子	正当化される不処罰—2000年以降の在日米性暴力に対する日本の司法処理	平和研究48
山越 裕太	ヘルス・ガバナンスの胎動と国際連盟保健機関	国際政治193
山崎 望	自由民主主義体制は生き残れるか、再考—正統性の移行と再配置される暴力	国際政治194
山本 吉宣	国際秩序の史的展開	国際問題668
湯川 拓	選挙監視は誰に何を伝えるのか	国際政治192
Chiyuki Aoi, Madoka Futamura, and Alessio Patalano	Hybrid Warfare in Asia: Its Meaning and Shape	The Pacific Review 31(6)

【日本関係】

秋元 美紀	戦後における日本の対中東文化交流活動	国際政治192
秋山 信将	核兵器禁止条約成立後の日本の核軍縮政策	国際問題672
伊東 かおり	戦間期の列国議会同盟と日本—中村嘉寿の活動を中心に	国際政治193
江原 規由	「一帯一路」の現段階と日本	国際問題673
大庭 三枝	日本の「インド太平洋」構想	国際安全保障46(3)
大山 貴稔	戦後日本における「国益」概念の淵源—“national interest”をめぐる翻訳論的考察	国際安全保障46(3)
菅野 直樹	日露戦争時の戦地陸軍建築部	防衛研究所紀要20(2)
信田 智人	安倍晋三首相と日本の外交・安全保障政策	国際安全保障46(1)
白鳥 潤一郎	「価値」をめぐる模索—冷戦後日本外交の新局面	国際安全保障45(4)
醍醐 龍馬	外務卿副島種臣と日露領土交渉—樺太千島交換条約への道筋	国際政治191
武島 良成	バ・モオ政府（ビルマ）と日本軍の葛藤	国際政治192

谷 拓弥	日中戦争期における日本軍の情報活動—北支那方面軍の共産党軍対策を中心として	防衛研究所紀要21(1)
土山 寛男	朝鮮のバランス・オブ・パワーと日本	国際問題670
寺林 裕介	日印原子力協定の締結と日本の対応—協定、公文及び国会論議を題材として	軍縮研究8
中西 寛	戦後秩序の動揺と日本外交の課題	国際問題668
中林 啓修	先島諸島をめぐる武力攻撃事態と国民保護法制の現代的課題—島外への避難と自治体の役割に焦点をあてて	国際安全保障46(1)
野島 大輔	「軍縮・不拡散教育」の現状と課題—カリキュラム開発の実践事例を添えて	軍縮研究8
原崎 亜紀子	防衛装備・技術協力とその知的財産戦略	防衛研究所紀要20(2)
山口 嘉大	サイバー防衛における官民連携の強化について—エストニア共和国との比較を通じて	防衛研究所紀要21(1)
山本 章子	デタント崩壊とインドシナをめぐる日米関係	国際政治192
湯川 勇人	日中戦争初期における日米関係	国際政治190

【アジア・中東・アフリカ・ラテンアメリカ・オセアニア関係】

青木 健太	チャーバハール港開発と「インド太平洋」地域の秩序形成	国際安全保障46(3)
阿久津 博康	金正恩時代の北朝鮮の核態勢—対米戦略の新展開	国際安全保障46(2)
荒 哲	日本占領下フィリピン周縁社会の忘れ去られた民衆間暴力—レイテ島の対日協力準軍事組織の活動をめぐって	アジア研究64(3)
飯笹 佐代子	オーストラリアのポートピール政策とパリ・プロセスの展開—難民保護をめぐる攻防	国際政治190
飯田 将史	習近平による外交と政治的権威の強化	国際安全保障46(1)
伊豆山 真理	南アジアにおける中国・インドの競争—ボーダー、連結性、勢力圏	国際問題669
井上 一郎	グローバル化時代の中国外交部	アジア研究64(4)
今井 宏平	中東地域秩序にクルド人の居場所はあるのか	国際問題671
今井 宏平	「主権の空白地」の統治をめぐるせめぎ合い—イラクとシリアにおける「イスラーム国」とクルド人組織の活動を事例として	国際政治194
江崎 智絵	中東和平の枠組みをめぐる対立—米国によるエルサレムのイスラエル首都認定の背景とその影響	中東研究532
小川 伸一	権力移行期の挑戦国（ロシア、中国）と軍備管理・不拡散	国際問題672
鬼丸 武士	近代アジアにおける越境する革命家の「旅」と都市	国際政治191
川島 真	中国の対外政策目標と国際秩序観—習近平演説から考える	国際問題668
神田 英宣	海洋の非伝統的安全保障—オーストラリアの脅威認識と対応	国際安全保障46(1)
木村 友彦	東ティモール問題に対するウィルシー豪外相の政策構想—民族自決に基づく解決の模索と挫折、1974–1975年	アジア研究64(2)
倉田 秀也	北朝鮮「非核化」と中国の地域的関与の模索—集団安保と平和体制の間	国際安全保障46(2)
栗田 真広	インドの核ドクトリンにおける先制核攻撃オプションの可能性	国際安全保障45(4)
近藤 重人	脱石油依存とサウジアラビアの外交政策	国際問題671
酒井 啓子	「IS後」を謳歌するもの、「IS前」に戻すもの	国際問題671
左近 幸村	ヴェットとアジア市場	国際政治191
佐竹 知彦	豪州とインド太平洋—多極化時代における新たな秩序を求めて	国際安全保障46(3)

佐藤 章	「アフリカの問題のアフリカによる解決」の両義性もしくは逆説—地域機構による紛争対応能力の向上をめぐる	国際政治194
重政 公一	ミャンマーのロヒンギャ問題とASEAN	国際政治190
周 生升	パキスタンから見る台頭中国外交の実像—パキスタン側のプル要因に着目して	アジア研究64(1)
庄司 智孝	ベトナムの対米安全保障協力—歴史的経緯、現状と将来展望	防衛研究所紀要20(2)
未近 浩太	「IS後」のシリア紛争—輻輳する3つの「テロとの戦い」	国際問題671
杉木 明子	ケニアにおける難民の「安全保障化」をめぐるパラドクス	国際政治190
竹中 千春	「海の国際政治」とインド洋	アジア研究64(3)
立山 良司	拡大するシオニズムの宗教的側面—イスラエルにおける政教関係の変化	国際問題675
団 陽子	中華民国の対日賠償要求をめぐる意思決定過程—日本海軍の残存艦艇処分問題と米国の余剰艦艇供与との関連を中心に	アジア研究64(4)
長尾 賢	インドにとっての「インド太平洋」戦略とは何か	国際安全保障46(3)
藤井 篤	アルジェリア戦争と赤十字国際委員会（ICRC）—人道主義と政治の相克	国際政治193
福田 安志	アメリカの中東関与の変化とロシアの進出、湾岸への影響	中東レビュー5
古川 勝久	北朝鮮による制裁強化への適応と国際社会の課題	国際安全保障46(2)
堀本 武功	「インド太平洋」時代の日印関係—日米豪印枠組みを超えて	国際問題669
松浦 吉秀	東南アジアにおけるイスラム過激主義者の動向と各国の対応—インドネシア、フィリピンの事例を中心に	防衛研究所紀要21(1)
松永 泰行	トランプ政権とイラン核合意の行方—米国単独離脱とその影響	国際問題671
山尾 大	暴力を拡散させた体制転換—イラクの事例から	国際政治194
山口 信治	中国の国際秩序観—選択的受容からルール設定をめぐる競争へ	国際安全保障45(4)
山口 正大	アフリカの集団安全保障における地域機構の役割、発展と特徴—ソマリアとマリ的事例から	国際政治193
山崎 周	中国の対外政策決定過程における外交部—人民解放軍との関係を中心として	国際安全保障46(3)
了泉庵 達士	中南米諸国による軍縮・不拡散の取組及び共通ポジションの形成メカニズム	軍縮研究8

【アメリカ・ヨーロッパ関係】

会田 弘継	ジェームズ・バーナム思想とトランプ現象—エリートと民衆の反動的交叉	アメリカ研究52
池田 亮	一九五六年基本法とフランス植民地帝国の変容	国際政治191
石川 卓	トランプ政権の核態勢見直しと軍備管理・不拡散への含意	国際問題672
植村 充	フランス移民管理の対外政策化とEU多層的移民ガバナンス	国際政治190
金澤 裕之	イラン・イラク戦争における航路安全確保のための活動	防衛研究所紀要20(2)
川波 竜三	国際通貨システムの動揺期におけるイギリスのポンド政策	国際政治192
切通 亮	電磁スペクトルにおける米国の軍事的課題と対応	防衛研究所紀要21(1)
草野 大希	サルマン国王即位後の米国の対サウジアラビア外交—オバマとトランプ政権下で動揺する「同盟関係」	中東研究534
小泉 悠	ロシアの秩序観—「主権」と「勢力圏」を手掛かりとして	国際安全保障45(4)

小畑 理香	国境を超える学生モビリティと高等教育分野におけるヨーロッパ地域協力の歴史的展開	国際政治191
佐藤 滋	イギリス帝国の「福祉国家」構想	国際政治191
澤田 眞治	ブラジル外交と「保護する間の責任」	国際政治194
辰巳 由紀	戦略的概念としての「インド太平洋」—米国の視点から	国際安全保障46(3)
玉井 雅隆	パチカンと国際政治—CSCEにおけるパチカンの役割と宗教	平和研究49
玉置 敦彦	秩序と同盟—アメリカの「リベラルな国際秩序」戦略	国際安全保障45(4)
戸崎 洋史	米国の抑止態勢と北朝鮮—トランプ政権の核態勢見直しと政策展開	国際安全保障46(2)
中井 遼、武田健	難民の分担をめぐる欧州諸国の世論分析	国際政治190
南波 慧	欧州域外国境における人道危機の安全保障化—海難救助活動とブローカーとの闘い	グローバル・ガバナンス4
西岡 達裕	素人大統領の登場とアメリカ政治の現段階	国際政治192
秦野 貴光	ロバート・セシル卿の国際平和機構観—国家主権・世論・平和的変革	国際政治193
八谷 まち子	経済の共同体から価値の共同体へ—EU統合における「世俗主義」	日本EU学会年報38
林 大輔	EU・中国関係の制度的枠組—法的基盤・重層的対話枠組・パートナーシップ	日本EU学会年報38
兵頭 慎治	プーチン大統領のリーダーシップ—ロシアの対外強硬路線の行方	国際安全保障46(1)
松本 佐保	カトリック教会と国際政治—教皇フランシスコはリベラルな国際秩序を主導できるか	国際問題675
村田 晃嗣	レーガンとトランプ—比較リーダーシップ試論	国際安全保障46(1)
山下 隆康	米軍の指揮統制関係	防衛研究所紀要21(1)